

## アンパイア（第4話）

『また雨が強くなった。』

梅雨の時期に県東地区総体は行われる。この年は特に雨の多い大会だった。大会1日目、2日目が雨のため中止。3日目は小雨が降っていたが、期間内に大会が終わらなくなってしまうため、無理をして大会を実施した。

降りしきる雨の中、押見は三塁審判をしていた。『さすがにこれ以上、試合は無理だな。』そう思っていると、ほどなく試合は中断した。雨がやむ気配も無かったので、この試合はサスペンデットゲーム（中断した所から、明日試合を行う）になった。

私は木の下に身を寄せ、ずぶ濡れになった審判服から着替えていると、怒鳴り声が聞こえてきた。声の主は、県東地区野球部顧問でも一番の名将と言われている先生で、この大会も率いているチームは第1シード。地区大会の優勝はもちろん、県大会そして関東・全国の進出も期待されていた。

『なんでですか。おかしいじゃないですか。』名将は激昂していた。どんな日程でも負けない強さがある名将のチームなのに、何に怒っているのだろうと不思議に思っていると、明日の日程についてだということが分かった。

『なんで一日2試合なんだよ。子供達のことを考えろよ。』名将が怒っている日程はこうだ。今日、雨のためサスペンデットゲームになった試合が明日の第1試合で行われる。そして第2・第3試合をはさんで、第4試合で、第1試合に勝ったチームが名将のチームと試合をする。

名将のチームにとっては、むしろ有利なので、怒る必要は無いだろうと思っていると、名将の声はさらにヒートアップした。

『最後の総体だろう。みんなここで勝ちたいと思って練習しているんだ。試合に勝って、家族で夕食を食べながら、子供が『お母さん、明日はホームランだ。』と言って、それを聞いたお母さんが『じゃー、明日のお弁当はトンカツね。』と言って、その横でお父さんが、『じゃー、明日は仕事を休んで応援に行くか。』そういう晩飯の時間を過ごすのが、3年間頑張って試合に勝ったご褒美じゃないのかよ。折角勝っても、その日にうちと試合をして負けたんじゃ、なんのために頑張ってきたのか分からないじゃないか。』

名将は私を見た。『押見。お前は来週も審判に来るよな。』来週にまで大会が延期されれば、さすがに授業交換は厳しい。クラスのこと心配だ。しかし、私が『はい』って言える教師なのかを試している気がして『無理です。』と言うことはできなかった…。

あれから20年近い時間が経った。先日『外回り』をしていると偶然、名将に会った。『もう野球は忘れたよ。』名将は私を見て静かに笑った。